

アイリス Letter

保護者の皆様へ

2025年12月19日発行

第4号

広島女学院中学高等学校

<聖書のことば>

天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそが主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

ルカによる福音書 2章10~12節

2学期の終業の日を迎えました。中学・高校のクリスマス礼拝では、イエス様の降誕を喜ぶ讃美の声が響きました。中学生は、17日に行われた讃美歌コンクールでも素敵な讃美がなされ、その時の課題曲がそのまま学年ごとの讃美となり、学年が一つとなった喜びにあふれるものでした。高校は、3学年全員によるハレルヤの讃美があります。高校3年生の心に響く声は、女学院の伝統です。高2・高1との3部合唱は、聴く者も魂を揺さぶられます。讃美歌コンクールが終わった後、中学生が「クラスが一つになった。そして、女学院が一つになってよかったです。」と話していたと聞きました。中学と高校は一緒の礼拝はできませんが、ゲーンズホールには、中学生と高校生の「女学院が一つになった。」という祈りが結ばれていると感じました。

11月には、キリスト教強調週間がありました。11月22日の特別礼拝では、学年の代表が講師のお話や学年ごとの行事で出会ったことを述べます。つながることの大切さを感じ、それが自分の生き方の軸になっていくことを伝えてくれました。

クリスマスは、神様がイエス様をわたしたちに送ってくださった喜びと感謝の時です。そのことを最初に知ったのは、弱い弱い羊飼いたちでした。救い主が来てくださることをだれもが待ち望んでいました。その知らせは、いつも神さまの御用をしている人やたくさんの献金をしている人にではなく、世の中から大切にされることがなかった羊飼いに届いたのです。そして、イエス様も、その羊飼いが生活するその場所に弱い弱いお姿でお生まれになりました。

私たちは、周りからの期待に応えることにのみ力を注ぎ、他の人とつながることを忘れてしまうことが多いです。しかし、本当の平安は、イエス様が愛してくださっている私と、同じように愛してくださっている隣人とがつながるときに、与えられるものと思います。冬休みは、ご家族の団らんのときとなりますように。そして、一歩外に動き、つながる出会いがあるときとなりますように、お祈りいたします。

(校長)

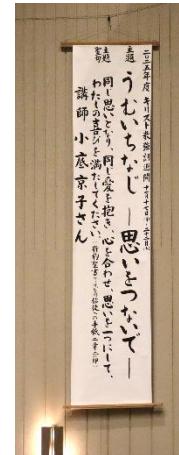


キリスト教強調週間（11/17～22）

主題「うむいちなじ 一思いをつないでー」、主題聖句フィリピの信徒への手紙2章2節「同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。」のもと、18日は主題講演と学年ごとの特別プログラムが実施されました。



主題講演の講師の小底京子さんは国立療養所沖縄愛楽園自治会長を務められ、沖縄愛楽園祈りの家教会の代表でもあります。そして、介助者の鈴木陽子さん（国立療養所沖縄愛楽園交流会館学芸員）とともに主題講演をされました。はじめに、鈴木さんから沖縄愛楽園の歴史を紹介されました。沖縄愛楽園はハンセン病患者たちが安心して暮らすことのできる土地を自ら見つけ、誕生させていただきました。その経緯に至るまでには、地元の人たちによる襲撃もあり、とても苦労されたとのことです。



主題講演講師の小底京子さんは高校2年生の時に、何も知らずに療養所に入園してはじめて自分がハンセン病だということを知らされたそうです。将来の進路などいろいろ考え始める矢先で、とても辛かったこと、筝との出会いによって、さまざまな逆境を乗り越えてこられたことなどを講演されました。

学年別活動では、「思いをつないで」というテーマで、社会のさまざまな分野の講師の先生と出会い、具体的な実践を通して考える時間をもちました。

この期間中、礼拝委員会、宗教委員会では、昼の集いを企画し、昼休みに放送をかけるなどをして、キリスト教に触れる機会を設けました。また、上空通路には、中学生の各クラスがこのキリスト教強調週間にかける思いをポスターにして掲示しました。



22日（土）の閉会礼拝では、各学年から2名ずつ主題講演と学年別プログラムを通しての感想を発表し、それぞれが得たものを分かち合い、この学びで得た恵みを共有しました。

（宗教教育委員会）

2025年度文化祭

11月2日（日）・3日（月・祝）に中高合同文化祭が開催されました。今年は、14年ぶりに2日間での開催となりました。2日（日）の午前中には、主日礼拝と開会式が行われ、開会式の中で、高校はマンドリン部と音楽部、中学はマンドリン部と合唱部の発表を全員で鑑賞しました。学校生活のなかで、全員でクラブの発表を見る機会は意外と少なく、友達の演奏に大きな刺激を受けた人もいました。午後には、ホールの一般公開と、校舎内では生徒を対象とした教室発表が行われました。校内のいたるところで、高校生が中学生をもてなす姿が見られ、中学生は高校生の姿にあこがれを抱いた様子でした。



3日（月・祝）はホール・校舎内ともに一般公開しました。今年は、昨年とほぼ同じ4000人弱のお客様をお迎えしました。2日の公開終了後に反省会を開いたクラスもあり、例年よ

リスムーズにお客様に対応していました。今年の文化祭は、生徒の活躍の場をできる限り提供することを目標にしてきました。中3五人委員と有志による喫茶店は、企画段階から生徒で作りあげ、内装にもこだわって、当日も多くのお客様で大盛況でした。また、模擬店では、ボランティアチームの「鹿プロジェクト」が鹿肉のそぼろ丼とソーセージを販売しました。



さらに、高校チャペルや高校展示の部屋では、E Pで活動してきた団体が発表しました。ステージ、体育館・グラウンド、模擬店、HR発表、部活動・委員会の教室発表など、多岐にわたる発表内容を準備し、当日もそれぞれの持ち場で、一生懸命に発表や接客をしていました。今年の生徒会年間テーマ「六連星」になぞらえて、生徒たちはいたるところで自分の個性と日頃の成果を發揮し、輝いていました。公開時間が半日増えた分、いつもよりは余裕があり、友達の発表を見て回って、生徒も楽しむことのできる文化祭になったのではないかと思います。あやめ賞（HR発表部門）1位は脱出ゲーム（2-B）、2位はおばけ屋敷（2-D・E）、あやめ賞（教室発表部活動部門）1位は2年連続受賞となる高校美術部、2位は中学理科部化学班でした。

末筆となりましたが、保護者のみなさまの多大なるご支援・ご協力のもと、文化祭を終えることができました。この場を借りて、お礼申し上げます。ありがとうございました。

(生徒会顧問)

高校スピーチ&プレゼンテーションコンテスト

11月26日、ゲーンズホールにて、高校1年生6名によるスピーチ、高校2年生4名によるプレゼンテーション、そして留学生による日本語スピーチが行われました。トピックは日常的な話題から、差別や核兵器、環境保全といった社会問題、都市開発、さらには妖怪の必然性に至るまで、多岐にわたりました。どの発表者もテーマについて深く考察し、聴衆を巻き込みながら問題提起をしてくれました。内容はもちろん、パフォーマンスも磨き上げられており、聴衆は笑ったり考えさせられたりと大忙しでした。

また、発表者以外にも、多くの生徒がMCとしてコンテストの進行を担当し、最初から最後まで運営を支えてくれました。執行部をはじめ、照明を担当した演劇部、そして吹奏楽部のドラムロールやシンバルの演出もあり、おかげさまでコンテストを無事に開催することができました。

発表者の皆さんをはじめ、協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。

Best Overall Speech 2-B Y. M

1-A I. W

Students' Choice Award 2-B F. T

1-A I. W



(英語科)

冬休みの過ごし方について

今年も残すところあとわずかとなりました。冬休みの過ごし方については配布済みの「冬休み中の注意事項」をご確認ください。今回は、保護者の方でもお困りの方が増加している「ネットとの付き合い方」について、触れてみたいと思います。

【スマホ依存傾向になっていませんか？】

スマホやChromebookは便利な「道具」ですが、使い手がコントロールできなければ、心身や学業に支障をきたします。近年、友人関係トラブルや、学習習慣や生活の乱れ、生活指導等で、ネットへの依存がその原因となっている事例も増えています。また、どうすればよいかお困りのご家庭も多いようです。そこで、何点か解決の糸口を紹介します。

【ネット依存対策の鉄則】

- ①デジタル・デトックスの時間を意識して作る（22時以降や食事中は触らない等）
- ②物理的な距離をとる（勉強中は自室に持ち込まない、就寝時はリビングに置く等）
- ③機能の活用（フィルタリング、スクリーンタイムを設定しアプリごとに時間制限を設定）
- ④親も一緒に実践する（大人も節度ある使用を徹底し、よき手本となる）
- ⑤リアルな体験を優先する（ネットでの会話より対面での会話の時間をとる。友人や家族との談話や、読書・散歩の時間などを意識的に作る）

①～③については周知のことかと思いますが、最近は、④や⑤の重要性が再評価されています。保護者のネット使用時間が長いほど、子どものネット時間が長くなる傾向にあります。また、依存しないためには「規制」だけでなく、他の「リアルな体験」に目を向けることが有効だと言われています。中高生という心身の成長期に、リアルな体験（人間関係にとどまらず、自然体験や、独りの内省の時間など）が不足することは、ソーシャルスキルや価値観形成、学力等にも大きな影響を与えると言われています。ネットとの付き合い方が、「生き方」にも影響する可能性があるということです。

【国際的な動きについて】

先日、オーストラリアでは16歳未満のSNS禁止の法律が施行されました。若者がSNSに起因するトラブルに巻き込まれたり、依存傾向にあることを危惧したことです。そして、そういった議論は他国でもおこなわれています。それだけ、国際的にもネット依存へは警鐘が鳴らされているということです。これを機会にご家庭でも今一度ルールを見直してみてください。

なお、そういった危機感に立ち、夏休みには動画（+概要音声）を配信いたしました。もし見逃した方や改めて確認したい方がいらっしゃいましたら、さくら連絡網で「ネットリテラシー」と検索してみてください。講演動画や、音声概要のアドレスの配信されているメールにアクセスできます。

さて、年末年始は、ぜひご家族で過ごす温かい時間を何より大切になさって、良い新年をお迎えください。

(生徒支援部)

保健室だより（4）

インフルエンザの流行が本格化し、11月27日付で広島県内全域に「インフルエンザ警報」が発令されました。本校でもインフルエンザに罹る生徒が増えてきました。

インフルエンザはインフルエンザウイルスによって起こる感染症で、突然の38℃以上の高熱、関節痛、頭痛、全身倦怠感、食欲不振などの全身症状が現れます。加えて、今シーズンは鼻水、咳、喉の痛みなどの上気道症状も多く現れます。感染経路は飛沫感染、接触感染です。予防は「手洗い」「マスク着用」「こまめな換気」「十分な睡眠とバランスのとれた栄養摂取」などが効果的です。

インフルエンザは学校感染症第二種で学校保健安全法により、出席停止となります。期間は「発症した後から5日経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで」です。現在、本校ではインフルエンザ、新型コロナウィルス感染症に関する治癒証明書の提出は不要です。医師からの指示を学校へご報告ください。

いよいよ冬休みに入ります。年末は自分自身と向き合うにはよい機会です。1年間を振り返り、これから的新しい年をどのように生きていくかを、今の状況を見据えて、目標や計画を立ててみてはいかがでしょうか。また、休み期間中も決まった時間に起きて寝て、生活リズムを崩さず、ご家庭で大掃除、料理、イベント等の充実した時間をお過ごしください。どうぞ、よい年をお迎えください。

(保健室)

心の健康（4）

“見上げればこんなに広い空がある” 住宅顕信

12月はなにかと気ぜわしく、心が傷つきやすくなっているようです。先日、些細なことで自己嫌悪に陥り、ウツウツとしている時に上記の句に出会いました。戸外に出て見上げると、心が広々とした空で満たされ、スーッと楽になりました。

年末年始は多忙になり、ストレスがかかりやすくなります。この時期は特にストレス対応に配慮しましょう。対応のヒントを頭文字で示します。

- S—sleeping ・睡眠を十分にとろう
- T—tree ・自然にふれよう
- R—relation ・人間関係を持とう
- E—eating ・食事を大切にしよう
- S—sport ・運動をしよう
- S—speaking ・おしゃべり、話し合おう



1日1度でもどれかを実行して多忙な日々を乗り切りましょう。

(カウンセラー)

教職員の動向

○この度、以下の教員の方が退職されました。本当にありがとうございました。今後のご活躍をお祈りいたします。

退職 井上 真歩 (聖書)



生徒の活躍

◇中高吹奏楽部

第 63 回中国吹奏楽まつり in さくらぴあ

最優秀賞ならびに中国新聞社賞

◇中高マンドリン部

第 48 回広島県中高ギター・マンドリンフェスティバル

優秀賞ならびに朝日新聞社賞

◇高校理科部 化学班

・第 69 回広島県科学賞 入選（広島県教育委員会賞）

研究内容「アントシアニンで染色した絹布の紫外線遮蔽率に関する研究」

3-E Y. K 3-A Y. R 3-A N. Y 3-E M. R
2-B Y. A 2-C T. R 2-B G. S

・第 63 回広島県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞

研究題目「発色剤の研究～硝酸塩の還元による肉の発色～」

2-B Y. A 2-C T. R 2-B G. S
1-A F. Y 1-B A. M 1-B T. C 1-C F. S
1-D H. Y 1-E W. Y 1-E Y. K

◇令和 7 年度（第 38 回）広島市科学賞

教育長賞（広島県科学賞へ出品）

3-5 M. S

優秀賞（広島県科学賞へ出品）

3-5 M. Y

優良賞（広島県科学賞へ出品）

3-1 K. M 3-1 S. A 3-1 U. R 3-2 S. A
3-5 N. Y

佳良賞

3-2 N. A 3-4 N. S 3-4 Y. A 3-5 O. T

◇第71回青少年読書感想文全国コンクール・第58回広島県中学校読書感想文コンクール

3-5 F. K 入選 「かさ」

2-5 M. A 入選 「挑戦し続けられるように」

◇1-A O. M

けんみん文化祭ひろしま'25 洋舞フェスティバル 優秀賞

第39回クリスマスコンサート・メサイアのご案内

バロック音楽の大作曲家G.F.ヘンデルは音楽家として厳しい苦境にあった時、台本作家ジエネンズから救い主(=メサイア)イエスを描いた台本を提供されます。その内容に触発され、彼は驚くべきエネルギーを注いで名曲・オラトリオ「メサイア」を完成させ、以来名曲として愛される作品となりました。広島女学院ではこの演奏会を長く引き継ぎ、今年も多くの協力者と共に中高からは高校音楽部、オーケストラグループ、保護者・教職員有志が参加します。是非お子さまの在学中にご一緒に聴きください。

日 時：12月21日（日）

16時30分開場、17時開演

場 所：グーンズホール（中高校地）

出 演：独唱 乗松恵美（卒業生）、佐々木有紀（卒業生）、下岡輝永、折河宏治

合唱 広島女学院メサイア合唱団

オーケストラ 広島女学院メサイアオーケストラ

指揮 星野晴夫（本校の前校長、現在オーケストラ同好会コーチ）

入場料：無料（チャリティー献金を行います。任意）

※託児室は設けておりませんので、小学生未満のお子様のご入場はご遠慮ください。

※駐車場はありませんので、お車での来場はご遠慮ください。



（メサイア実行委員会）



今月の聖句

すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に發揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

(コリントの信徒への手紙二 12章9節)

2学期最後の中学校アッセンブリーでは、朝の礼拝で上記の聖書箇所を用いた先生のお話を聞いた中2生の礼拝委員が、以下のように述べていました。

私は「人に弱さがあることは悪いことではないんだな」と思いました。自分の弱いところを知られることに抵抗を感じて、つい隠してしまうことがよくあります。でも、この聖句を聞いて自分に弱さがあることは決して悪いことではなく、むしろ自分らしさの1つだということに気が付きました。自分の弱さを受け止め、周りの人とお互いの弱さを認め合って支え合うことで、ひとりではできないことを乗り越えることができるということがわかりました。これからは、自分の弱さを自分の強みに変えられるように一人で抱え込まず、友達と助け合いながら歩んでいきたいです。

およそ 2000 年前の当時の社会で様々な弱さを抱える人々でさえ救いの手を差し伸べてくださった救い主イエス・キリスト。神の子・救い主であるイエス・キリストの誕生も居場所さえなかった「飼い葉おけ」という弱さからでした。弱さの最中のイエス・キリストの降誕は、神様がそのような人と共にいて下さることを意味すると同時に、私たち自身が、イエス・キリストを、イエス・キリストと共にいる人々を、受け入れることを求められているのではないでしょうか。

自ら弱さを通して神の愛と平和を示されたイエス・キリストの恩恵みを誇りに、いつまでも隣人と共に平和を生きる女学院で在りたいです。



(聖書科K. C)